

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 2 月 13 日 (2020.2.13)

【公開番号】特開 2018-149511 (P2018-149511A)

【公開日】平成 30 年 9 月 27 日 (2018.9.27)

【年通号数】公開・登録公報 2018-037

【出願番号】特願 2017-48704 (P2017-48704)

【国際特許分類】

B 0 1 J 35/04 (2006.01)

B 0 1 J 32/00 (2006.01)

B 0 1 D 53/94 (2006.01)

F 0 1 N 3/28 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 35/04 3 0 1 D

B 0 1 J 32/00 Z A B

B 0 1 D 53/94 2 2 2

B 0 1 D 53/94 2 4 5

B 0 1 D 53/94 2 8 0

F 0 1 N 3/28 3 0 1 P

F 0 1 N 3/28 A

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 12 月 24 日 (2019.12.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 6】

流入端面 1 1 において、隔壁 1 が交差する交点 7 が傾斜面を有する場合、その傾斜角については特に制限はない。例えば、図 7 に示すような「交点 7 の傾斜面の傾斜角 1」は、 $0 \sim 60^\circ$ であることが好ましく、 $45 \sim 60^\circ$ であることが更に好ましい。このように構成することによって、交点 7 への粒子状物質の堆積をより有効に抑制することができる。なお、「交点 7 の傾斜面の傾斜角 1」は、セル 2 の延びる方向に直交する面と平行な面を 0° とした場合における、傾斜面の傾斜角 1 のことである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

図 9 に示すように、流入端面 1 1 におけるセル 2 の形状が六角形である場合は、流入端面 1 1 における隔壁 1 が交差する交点 7 の総個数に対する、第一交点 7 a となる交点の個数の比の百分率が、 $25 \sim 50\%$ であることが好ましい。このように構成することによって、圧損の上昇より有効に抑制することができる。ここで、図 9 は、本発明のハニカム構造体の更に他の実施形態の流入端面を模式的に示す平面図であって、当該流入端面の一部を拡大した拡大平面図である。セル 2 の形状が六角形である場合、第一交点 7 a となる交点の個数の比の百分率が 50% ということは、ハニカム構造部 4 の流入端面 1 1 の全域に、第一交点 7 a と第二交点 7 b によって構成された凹凸部 8 を有することとなる。セル 2

の形状が六角形である場合、第一交点の比率は、40～50%であることが更に好ましい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

ハニカム構造体の一方の端面において、凹凸部は、この一方の端面全域に亘って存在していた。凹凸部の底部となる一の交点を第一交点とし、凹凸部の頂部となる他の交点を第二交点とした場合に、交点の総個数に対する、第一交点となる交点の個数の比の百分率は、25%であった。表1の「第一交点の比率(%)」の欄に、上記した第一交点となる交点の個数の比の百分率の値を示す。また、凹凸部は、第一交点と第二交点との高低差が、1.0mmであった。結果を、表1に示す。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0080

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0080】

実施例2～14、及び比較例1～4のハニカム構造体についても、実施例1と同様の方法で、酸化触媒を担持し、上記した方法で、「圧損評価」を行った。結果を、表1に示す。